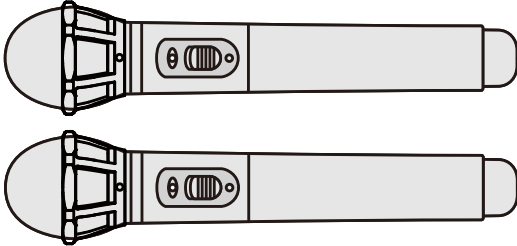


取扱説明書

お買い上げありがとうございます。
ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。
また、保証書と一緒にいつでもすぐ読める場所に保管しておいてください。

赤外線コードレスマイクロホンシステム



コードレスマイクロホン
AT-CLM900T AT-CLM990T



充電器
BC701



レシーバー
AT-CR999



受光ユニット
AT999RX

- 1台で4ch対応レシーバー、同じ部屋で4本まで同時使用可能
- 受信を安定させるトーン信号検出回路を搭載
(AT-CLM7000/701シリーズとの互換対応の為に切替スイッチ付)
- 1本のマイクロホンで2つのチャンネルが選択可能
(AT-CLM900T・AT-CLM990T各A/B切り換え)
- 高音質ダイナミックマイクユニット搭載
- スピーディにマイクユニット ASSY、グリップ LOW-ASSY の交換可能
- マイクロホンには、プロ仕様を意識したヘッドケース、高級感溢れるガンメタリックカラー採用
- 高性能受光素子採用により、受光ユニットの感度大幅アップと小型化を実現
- マイクロホンを2本同時に急速充電
マイコン搭載で充電状態の表示、過充電防止

目次

安全上の注意	2, 3
使用上の注意	3
マイクロホン：各部の名称と機能 / 使いかた / 電池の入れかた	4
マイクロホン：使用上の注意	4
レシーバー：各部の名称と機能	5
レシーバー：接続のしかた / 接続の注意	6
充電器：各部の名称と機能 / 充電のしかた	7
充電器：充電上の注意	7
受光ユニット：各部の名称	8
受光ユニット：設置のしかた / 取り付け上の注意	8
受光ユニット：セッティング例	8
受光ユニット：ケーブルを短くする場合	8
マイクユニット ASSY 交換のしかた	9
グリップ LOW-ASSY 交換のしかた	9
故障かな?と思ったら	10
テクニカルデータ	10
MEMO	11

安全上の注意

本製品は安全性に充分な配慮をして設計していますが、使いかたを誤ると事故が起こることがあります。事故を未然に防ぐために下記の内容を必ずお守りください。

- 危険** この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が切迫しています」を意味しています。
- 警告** この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があります」を意味しています。
- 注意** この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う、または物的損害が発生する可能性があります」を意味しています。

マイクロホン / 受光ユニットについて

警告

- 本製品に異物(燃えやすい物、金属、液体など)を入れない
感電、故障や火災の原因になります。
- 同梱のポリ袋は幼児の手の届く所や火のそばに置かない
事故や火災の原因になります。
- 異常に気付いたら使用しない
異常な音、煙、臭いや発熱、損傷などがあつたら、お買い上げの販売店が当社窓口へ修理を依頼してください。
- 分解や改造はしない
感電、故障や火災の原因になります。
- 強い衝撃を与えない
感電、故障や火災の原因になります。
- 濡れた手で触れない
感電やけがの原因になります。
- 水をかけない
感電、故障や火災の原因になります。
- 布などで覆わない
過熱による火災やけがの原因になります。

注意

(※)印は受光ユニットのみの内容です。

- 不安定な場所に設置しない(※)
落下などによりけがや故障の原因になります。
- 直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かない
故障、不具合の原因になります。
- 火気に近づけない
変形、故障の原因になります。
- ベンジン、シンナー、接点復活保護液などは使用しない
変形、故障の原因になります。

レシーバー / 充電器について

警告

- 付属の AC アダプター以外使用しない
故障、不具合の原因になります。
- 本製品に異物(燃えやすい物、金属、液体など)を入れない
感電、故障や火災の原因になります。
- 同梱のポリ袋は幼児の手の届く所や火のそばに置かない
事故や火災の原因になります。
- 異常に気付いたら使用しない
異常な音、煙、臭いや発熱、損傷などがあつたら、すぐにACアダプターをコンセントから抜き、お買い上げの販売店が当社窓口へ修理を依頼してください。
- 分解や改造はしない
感電、故障や火災の原因になります。
- 強い衝撃を与えない
感電、故障や火災の原因になります。
- 濡れた手で触れない
感電やけがの原因になります。
- 水をかけない
感電、故障や火災の原因になります。
- 布などで覆わない
過熱による火災やけがの原因になります。

注意

- 不安定な場所に設置しない
転倒などによりけがや故障の原因になります。
- 直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かない
故障、不具合の原因になります。
- 火気に近づけない
変形、故障の原因になります。
- ベンジン、シンナー、接点復活保護液などは使用しない
変形、故障の原因になります。
- 狭い密閉された場所や熱がこもる場所には置かない
変形、故障の原因になります。

電池について

指定電池 専用ニッケル水素充電電池(付属)または単3形アルカリ乾電池

※指定電池以外は使用しないでください。

危険

- 電池の液が目に入ったときは目をこすらない
すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い、医師の診察を受けてください。
- 電池の液が漏れたときは素手で液を触らない
■液が本製品の内部に残ると故障の原因になります。電池が液漏れを起こした場合は、当社窓口までご相談ください。
■万一、なめた場合はすぐに水道水などのきれいな水で十分にうがいをし、医師の診察を受けてください。
■皮膚や衣服に付いた場合は、すぐに水で洗い流してください。皮膚に違和感がある場合は医師の診察を受けてください。

警告

- 火の中に入れてない、加熱、分解、改造しない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 釘を刺したりハンマーで叩いたり踏み付けたりしない
発熱、破損、発火の原因になります。
- 幼児の手の届く所に置かない
電池を飲み込んだ場合は、すぐに医師の診察を受けてください。窒息や内臓への障害の恐れがあります。
- 電池は (+)(-) を逆に入れない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 硬貨やカギなど金属製のものと一緒の場所に置いたり、電池の (+)(-) を接続しない
ショート状態になり液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 新しい電池と一度使用した電池、銘柄や種類の違う電池を混ぜて使用しない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 乾電池は充電しない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 使い切った電池はすぐに取り出す
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 長期間使用しない場合は電池を取り出す
液漏れによる故障の原因になります。

注意

- 落下させたり強い衝撃を与えない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 以下の場所で使用、放置、保管しない
■直射日光の当たる場所、高温多湿の場所
■炎天下の車内
■ストーブなどの熱源の近く
液漏れ、発熱、破裂、性能低下の原因になります。
- 水に濡らさない
発熱、破裂、発火の原因になります。
- 指定の充電器、ACアダプター以外で充電しない
故障、火災の原因になります。
- 外装ラベルがはがれた電池は使用しない、ラベルをはがさない
ショート状態になりやすく、液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 変形させたりハンダ付けしない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 保管、廃棄の場合は端子(金属部分)をテープなどで絶縁する
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 機器を使用したあとは必ずスイッチを切る
液漏れの多くは、スイッチの切り忘れによる電池の消耗が原因です。
- 指定の電池以外使用しない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 使用済みの電池は自治体の所定の方法で処分する
環境保全に配慮してください。



Ni-MH

■充電式電池のリサイクルについて

充電式電池はリサイクルできます。不要になった電池は、端子(金属部分)にテープなどを貼り付けて絶縁してから充電式電池リサイクル協力店をお持ちください。充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については、社団法人電池工業会ホームページ<http://www.baj.or.jp>をご覧ください。

AC アダプターについて

⚠ 警告

- **AC100V以外の電源には使用しない(日本国内専用)**
過熱による火災など事故の原因になります。
- **本製品以外には使用しない**
過熱による火災など事故の原因になります。
- **異常(音、煙、臭いや発熱、損傷など)に気付いたら使用しない**
異常に気付いたらすぐに使用を中止して、コンセントから抜きお買い上げの販売店が当社窓口に連絡してください。
そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。
- **コードは伸ばして使用する。釘などでの固定や、束ねたままでの使用はしない**
過熱による火災など事故の原因になります。
- **コンセントや本体にプラグを差し込むときは根元まで確実に差し込む**
過熱による火災など事故の原因になります。
- **コードを引っ張らず、プラグを持ってまっすぐ抜き差しする**
断線、故障の原因になります。
- **コードの上に物を置いたり、敷物や家具などの下に入れたりしない**
断線、故障の原因になります。
- **分解や改造はしない**
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- **強い衝撃を与えない**
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- **濡れた手で触れない**
感電によるけがの恐れがあります。
- **布などで覆わない**
過熱による火災など事故の原因になります。
- **プラグにたまったほこりなどは乾いた布で定期的に拭き取る**
過熱による火災など事故の原因になります。
- **ベンジン、シンナー、接点復活剤など薬品は使用しない**
変形、故障の原因になります。

⚠ 注意

- **長時間使用しないときは、コンセントから抜き**
省エネルギーにご配慮ください。
- **足に引っ掛かりやすい場所にコードを引き回さない**
故障や事故の原因になります。
- **通電中のACアダプターに長時間触れない**
低温やけどの原因になることがあります。

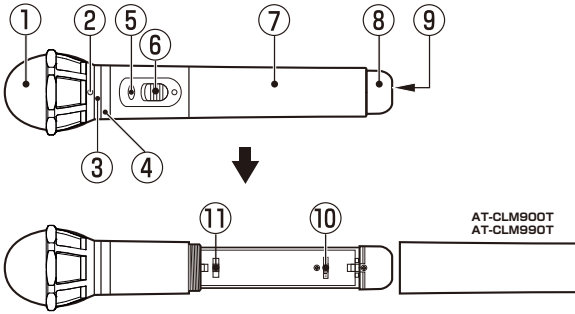
使用上の注意

- ご使用の際は、接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 受光器が超高感度なため直射日光の射し込む場所などでは、ノイズが発生することがあります。その場合はカーテンなどで窓を覆ってください。
- 赤外光発光部は手で覆わないでください。

⚠ 設置上の注意

- ・ 振動、衝撃の多い場所、ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。
- ・ 調理台の近くなど、油、蒸気、熱のあたる場所には設置しないでください。
- ・ アンプの近くやラックの中など、熱がこもる場所での設置は避けるか、通気をしてください。
- ・ 赤外線線の到達距離は、天井の壁や色や材質によっても変化します。
- ・ 到達距離とは無関係にノイズが発生する場合があります。その場合には適切な場所に受光器、レシーバーを設置してください。
- ・ 天井に受光器を設置する際は、窓または壁から少なくとも2~3m離して設置してください。
- ・ 壁に受光器を設置する際は、天井から少なくとも2~3m離して設置してください。
- ・ 受光器は、蛍光灯から50cm以上離して設置してください。
- ・ 音声ケーブル・受光ユニットケーブルの配線上に大型電気機器がある場合に、ノイズが発生する可能性があります。
- ・ そのほか下記の赤外線発生源の近くに受光器、レシーバーを設置すると、システムの動作不良やノイズが発生する原因となる可能性があります。また、マイクロホンについても同様に赤外線やノイズの発生源には近づかないように注意してください。
 - ・ 照明装置
 - ・ プロジェクター(液晶やDLPなど)、OHP、白熱電球など
 - ・ 水銀灯、ハロゲン灯、インバータ式蛍光灯、ブラックライト
 - ・ プラズマディスプレイ
 - ・ リモコン、赤外線マイク、赤外線LANなどの赤外線機器
 - ・ 調光器
 - ・ デジタルパワーアンプなどの、デジタル機器およびその配線(デジタルパワーアンプのスピーカー出力配線など)

マイクロホン：各部の名称と機能／使いかた／電池の入れかた



- ①ヘッドケース
- ②ヘッドケース止めネジ
- ③デザインリング

AT-CLM900T：シルバー（レーザー：チャンネル 1、2 用）
 AT-CLM990T：ゴールド（レーザー：チャンネル 3、4 用）

- ④リングメイハン

- ⑤電源インジケーター 電源を入れると電池の残量を表示します。
 点灯：使用可能
 点滅または無点灯：充電してください。
 *点灯色 AT-CLM900T A：黄 B：緑
 AT-CLM990T A：赤 B：青
 *電源インジケーターが点滅表示ですと受信範囲が狭くなり、ノイズの混入や途切れが発生する場合があります。

⚠ 本製品は付属の専用充電式電池を使用するのが原則ですが、緊急の場合、単3形アルカリ乾電池2個でも使用できます。その場合、電池残量表示は正しく表示されません。また、アルカリ乾電池を使用するときは絶対に充電しないでください。

- ⑥電源スイッチ ON 側にスライドさせると電源が入ります。

- ⑦グリップ

- ⑧赤外光発光部 赤外光発光 LED が内蔵されています。

- ⑨充電端子部 充電器に差し込む接点部分です。

- ⑩出力切換スイッチ

LO：標準 HI：出力大（出荷時は LO に設定されています。）

- ⑪チャンネル切換スイッチ

AT-CLM900T A：搬送周波数=2.06MHz B：搬送周波数=2.56MHz
 AT-CLM990T A：搬送周波数=3.2MHz B：搬送周波数=3.7MHz
 （出荷時は A に設定されています。）

⚠ 注意

- マイクロホンの電池残量表示（電源インジケーター）は、あくまでも一つの目安としてご利用ください。また、電池残量表示は付属の専用充電式電池以外対応していないため、必ず専用充電式電池をご利用ください。
- ご購入直後の1回目の充電およびマイクロホンの電源スイッチをON側にしたまま長い間放置され過放電になっている場合は、1回の充電で十分に充電されない場合があるため、2回充電してください。
- 過放電の状態によっては電池が使用不能になる場合もあるため、マイクロホンの電源インジケーターが消灯したらずぐにマイクロホンの電源を切ってください。
- 市販の単3形乾電池を使用した場合、マイクロホンの電池残量表示は正しく表示されないためご注意ください。
- 電池の極性を逆に入れた場合、故障の原因になります。
- マイクロホン下部の赤外光発光部およびレーザーの受光部は手で覆わないでください。また発光部と受光部の間に仕切りや障害物があるとノイズが混入したり、聞こえなくなる原因になります。
- マイクロホン下部の赤外光発光部を強く握ったりひねったりしないでください。故障の原因となることがあります。

使用上の注意

- 赤外光発光部は手で覆わないでください。
- 赤外光の到達距離は壁、天井や床などの色や材質によっても変わります。
- 到達距離とは無関係にノイズが発生することがあります。その場合は、受光ユニットを適切な位置に取り付け直してください。

*本製品は付属の専用ニッケル水素充電電池、または別売の単3形アルカリ乾電池を2本使用します。電池は同じ種類のものを使用してください。（被覆ははがさないでください。）

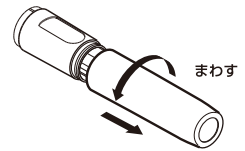
■使いかた

- ①マイクロホンを充電します。
- ②レーザーの出力切換（マイク⇔ライン）を確認します。
- ③レーザーの電源を入れます。
 *電源を入れてから約1秒間は音が出ません。
- ④マイクロホンと受光ユニットの距離は LO (12m) / HI (16m) 以内になります。レーザーのミュートを「入」にする場合は LO (7m) / HI (9m) 以内になります。（距離は室内の状況により変化します。）
- ⑤マイクロホンの電源を入れます。
- ⑥マイク音量はお手持ちの機器またはレーザーのボリュームで調整します。

■電池の正しい入れかた

- 1 電源をオフにします。

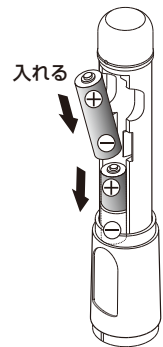
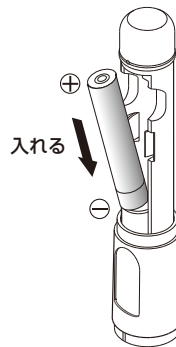
- 2 グリップを反時計方向に回し、外します。



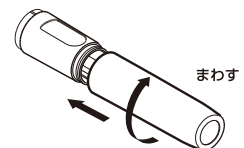
- 3 ヘッドケースを下に向け、電池を⊖側から先に入れます。

専用ニッケル水素電池の場合

*単3形アルカリ乾電池の場合
 *1本ずつ入れます。

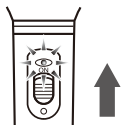


- 4 グリップを本体にはめ込み、時計方向に止まるまで回します。



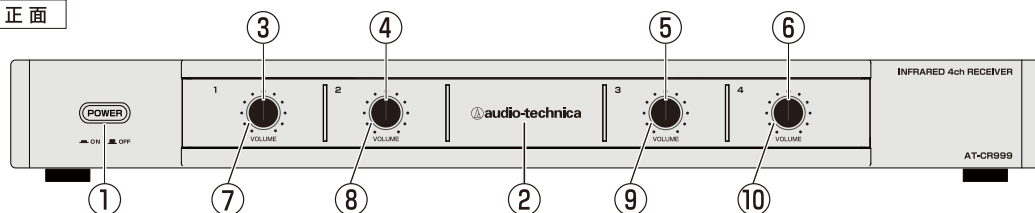
- 5 電源スイッチをオンにし、電源インジケーターが点灯すれば正常です。

*電源インジケーターが点滅、または無点灯のときは電池が消耗しています。付属の専用充電式電池なら専用充電器にセットしてください。

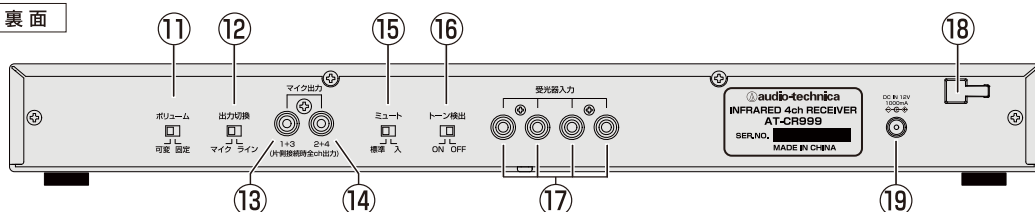


レシーバー：各部の名称と機能

正面



裏面



①電源スイッチ

②電源インジケータ（白）

電源が入ると点灯します。

③チャンネル1ボリューム（AT-CLM900T/A）

④チャンネル2ボリューム（AT-CLM900T/B）

⑤チャンネル3ボリューム（AT-CLM990T/A）

⑥チャンネル4ボリューム（AT-CLM990T/B）

⑦チャンネル1マイクインジケータ（黄）

チャンネル1のマイク信号を受信するとリング状に点灯します。

⑧チャンネル2マイクインジケータ（緑）

チャンネル2のマイク信号を受信するとリング状に点灯します。

⑨チャンネル3マイクインジケータ（赤）

チャンネル3のマイク信号を受信するとリング状に点灯します。

⑩チャンネル4マイクインジケータ（青）

チャンネル4のマイク信号を受信するとリング状に点灯します。

⑪ボリューム 可変／固定切換スイッチ

フロントのボリューム（③～⑥）の可変／固定を切り換えます。
※固定の場合は、ボリュームの出力が12時の位置で固定になります。

⑫出力切換スイッチ

お手持ちの機器のマイク入力ジャックに接続した場合はマイク側、
ライン入力に接続した場合はライン側に切り換えます。

⑬チャンネル1+3マイク出力ジャック（RCAピン）

⑭チャンネル2+4マイク出力ジャック（RCAピン）

●お手持ちのアンプのマイク入力を使用する場合

付属の2.0m接続ケーブルのRCAピンプラグを本機の出力ジャックのどちらかに、
φ6.3標準プラグをお手持ちのアンプのマイク入力ジャックに接続します。

●お手持ちのアンプのライン入力を使用する場合

付属のRCAピンプラグ⇄RCAピンプラグケーブルの一方を本機の出力ジャック
のどちらかに、もう一方をお手持ちのアンプのライン入力に接続します。

●⑬または⑭片側みの接続の場合チャンネル1～4のMIX出力 となります。

⑮ノイズミュート切換スイッチ

使用時に音の途切れノイズが気になるときに、入にしてください。
受信範囲は狭くなりますが、ノイズは少なくなります。

⑯トーン検出切換スイッチ

ONの状態では、AT-CLM900T/990Tが使用できます。
OFFの状態では、AT-CLM900T/990T/701T/771T/7000T/7700Tが
使用できます。

⑰受光器入力ジャック

受光ユニットのプラグを差し込みます。
使用空間を広げたいときは受光ユニットの数を増やしてください。
最大4個まで増設可能です。

⑱アダプターコードフック

ACアダプターのプラグの抜け防止にご使用ください。

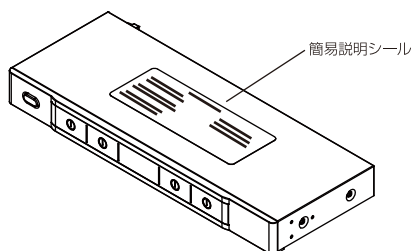
⑲外部電源入力ジャック（DC IN 12V）

ACアダプターのDC出力プラグを差し込みます。
*必ず付属のACアダプター：AD-LL1210ARを使用してください。

AD-LL1210AR ▶

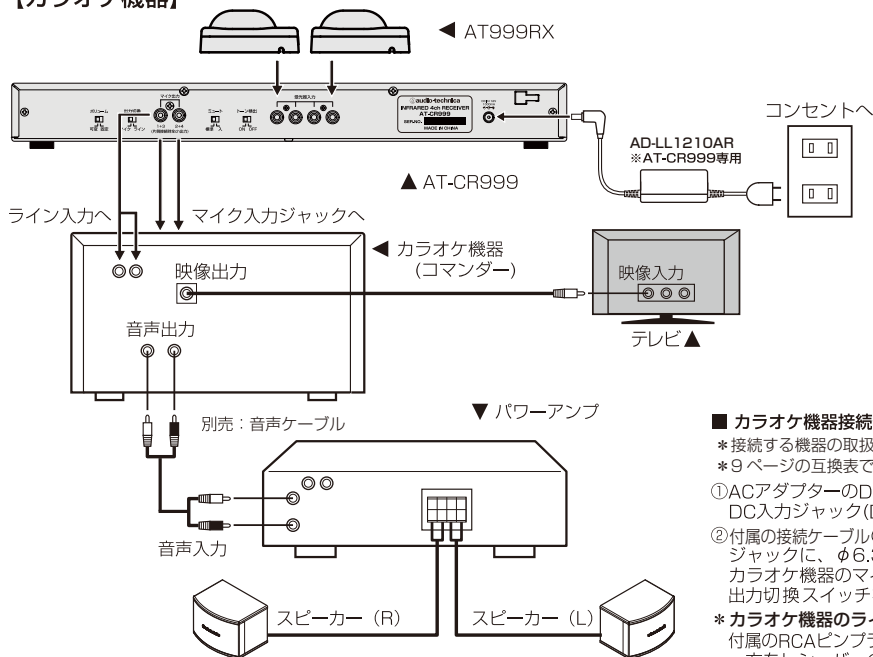
⑳簡易説明シール（付属品）

レシーバーの天面等に貼り付けてご使用ください。



レシーバー：接続のしかた

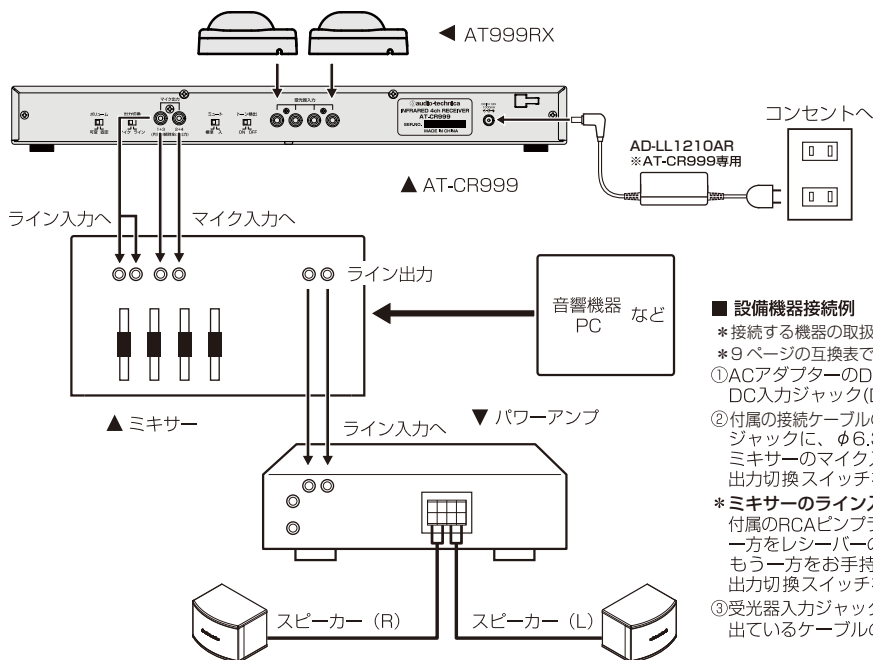
【カラオケ機器】



■ カラオケ機器接続例

- * 接続する機器の取扱説明書をよくお読みください。
- * 9ページの互換表で適合機種をご確認ください。
- ① ACアダプターのDC出力プラグをレシーバーのDC入力ジャック(DC IN 12V)に差し込みます。
- ② 付属の接続ケーブルのRCAピンプラグを本体のマイク出力ジャックに、φ6.3標準プラグをお手持ちのカラオケ機器のマイク入力ジャックに接続します。出力切換スイッチをマイク側にします。
- * **カラオケ機器のライン入力を使用する場合**
付属のRCAピンプラグ⇄RCAピンプラグケーブルの一方をレシーバーのマイク出力ジャックのどちらかに接続し、もう一方をお手持ちのカラオケ機器のライン入力に接続します。出力切換スイッチをライン側にします。
- ③ 受光器入力ジャックへ受光ユニットAT999RXから出ているケーブルのプラグを接続します。

【設備機器】



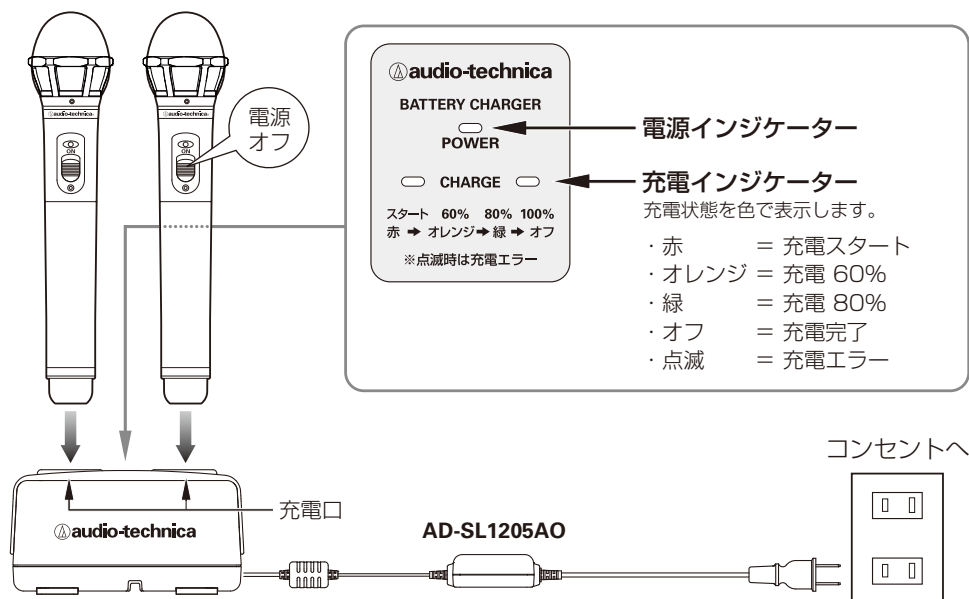
■ 設備機器接続例

- * 接続する機器の取扱説明書をよくお読みください。
- * 9ページの互換表で適合機種をご確認ください。
- ① ACアダプターのDC出力プラグをレシーバーのDC入力ジャック(DC IN 12V)に差し込みます。
- ② 付属の接続ケーブルのRCAピンプラグを本体のマイク出力ジャックに、φ6.3標準プラグをお手持ちのミキサーのマイク入力ジャックに接続します。出力切換スイッチをマイク側にします。
- * **ミキサーのライン入力を使用する場合**
付属のRCAピンプラグ⇄RCAピンプラグケーブルの一方をレシーバーのマイク出力ジャックのどちらかに接続し、もう一方をお手持ちのミキサーのライン入力に接続します。出力切換スイッチをライン側にします。
- ③ 受光器入力ジャックへ受光ユニットAT999RXから出ているケーブルのプラグを接続します。

⚠ 注意

- マイク出力と受光器入力の付け違いには充分ご注意ください。逆に接続すると火災や故障の原因になります。(マイク出力は白色、受光器入力は黒色で区別されています。)
- 本製品を高温になるパワーアンプやデジタルノイズを出す機器の近くに置かないでください。高温やデジタルノイズにより受信感が悪くなる場合があります。
- プラスディスプレイに受光ユニットを向けたり、近づけるとノイズが極端に増える場合や受光範囲が狭くなる場合があります。

充電器：各部の名称と機能／充電のしかた



■充電のしかた

- ① ACアダプターの出力プラグを充電器の外部電源入力ジャック (DC IN 12V) に差し込みます。
- ② ACアダプターの電源プラグを AC100V コンセントに差し込むと電源インジケータ (POWER) が赤に点灯します。
- ③ マイクホンの電源をオフにしてから、静かに充電口へ差し込みます。
* マイクホンを差し込んで、充電インジケータが点滅する場合は、マイコンエラーの可能性あります。一度電源を切ってからご使用ください。
* 電源がオンの状態で充電口に差し込むと、自動的に電源がオフになり、充電が開始されます。(オートオフ機能)
- ④ 充電中は充電インジケータが充電状態に合わせて点灯します。(赤→オレンジ→緑)
約 5.5 時間で充電完了します。
充電電池の消耗が少ないときは、自動的に短時間で充電完了します。
- ⑤ 充電インジケータが消灯すれば、充電完了です。
マイクホンは約9.5 時間連続使用可能です。(RF-Hi 時)
* 充電状態の表示は目安です。極力、満充電 (充電インジケータが消灯) になってからご使用ください。

⚠️ 取り扱い上の注意

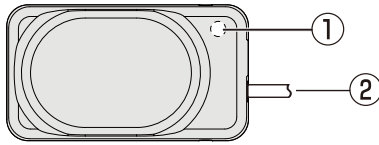
- 付属の専用充電式電池は AT-CLM900T、AT-CLM990T 専用です。ほかの用途に使用しないでください。
- 所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合には、充電をやめてください。
- 電池が漏液したり、変色・変形、そのほか今までと異なることに気付いたときは直ちに電池を外して使用しないでください。
- 充電式電池にまれに白い粉のようなものが付着することがありますが、故障ではありません。よく拭き取ってから再度ご使用ください。
- 初めて使用の場合に、サビや異臭、発熱、そのほか異常と思われたときは使用しないでください。

⚠️ 充電上の注意

- 平らな場所で充電してください。傾けて使用すると充電できません。
- 本製品はマイクロホンを充電器に差し込んで充電が始まると自動的にマイクロホンの電源が切れますが、念のためマイクロホンの電源スイッチをオフにしてから充電してください。マイクロホンの電源スイッチがオンの状態で充電器に差し込むと異音が発生する場合がありますが、使用上問題ありません。
- 充電インジケータが消灯するまでマイクロホンを使用しないでください。
- 充電式電池使用の際は、使い切らないうちに充電を繰り返すと、充電状態とは無関係に電池が消耗するメモリー効果と呼ばれる現象が起きます。その場合、一度電池をマイクロホンのインジケータが消えるまで使い切ってから充電してください。改善されない場合、充電式電池の寿命の可能性あります。新しい充電式電池と交換してください。
- 充電しないでスタンドとしてご使用の場合、ACアダプターを抜いてください。
- 充電中 ACアダプターから熱が発生します。充電器を ACアダプターの横に設置すると、温度により電池の電圧が変化し充電が途中で終わり、満充電されないことがあります。充電器は ACアダプターの横や高温になる場所には設置しないでください。
- 充電式電池はその性格上、充電を繰り返すと電池の容量が減少してきます。使用時間が短くなってきたら、なるべく早く新しい電池と交換されることをお奨めいたします。
- 充電器 BC701 の充電状態の表示は、あくまでも目安ですので、極力満充電 (オフ) になってからご使用ください。
- 充電中にマイクロホンを抜いて再度入れると、充電量の確認に約 30 分かかります。そのあいだ電池の充電量にかかわらず充電インジケータは充電スタート表示である赤色に変わるのでご注意ください。
- マイクホンの底の充電端子が汚れていると十分に充電できないことがあります。充電端子の汚れを落としてから充電器に入れてください。

- * BC701 は 2 本のマイクロホンを同時充電可能です。
出荷時は充電されていません。
- * 付属の専用充電式電池は約 750 回の繰り返し使用が可能です。

受光ユニット:各部の名称



①受光ユニット電源 LED (青)

レシーバーの電源が入ると点灯します。(ケーブルを接続するとき)

②受光ユニットのケーブル (ケーブル長: 20m)

受光ユニット本体底面の溝に入れて固定してください。(3方向に溝があります。)

※AT-CR999に付属するAT999PXには10mのケーブルが接続されています。

※推奨ケーブル: 1芯シールドケーブル

受光ユニット:設置のしかた

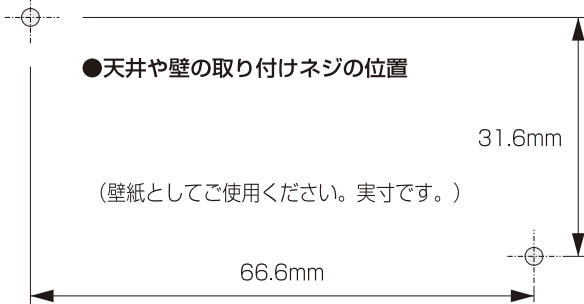
*プラスドライバーと木ネジ(付属)を用意します。

*受光ユニットは、マイクロホンから直視可能な場所で、レシーバーからケーブルが届く範囲に設置します。障害物がなく全体を見渡せる壁面の、天井からやや下がった位置に2個離して取り付けるのが最も効果的です。

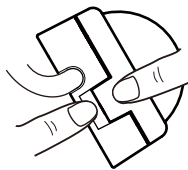
*受光ユニットのケーブルを標準より長くなる場合、各受光ユニットに取り付けるケーブル長に差があるとノイズが増えることがあります。推奨は5m以内です。

①受光ユニットの取り付け位置を決め、ネジ穴の箇所を鉛筆などであたりをつけます。

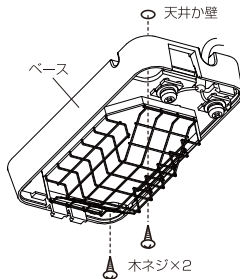
取り付けかたは、マイクロホンを使用する位置から見て、天井への取り付けは、受光部(丸くなっているほう)を手前へ、壁面への取り付けは、受光部(丸くなっているほう)を上を向くようにします。



②受光ユニットのカバーを開けます。



③木ネジをベースに通し、天井や壁などに取り付けます。



④カバーを元通りにはめ込みます。

⑤レシーバーを設置します。

⑥受光ユニットのRCAピンプラグをレシーバーの受光器入力に接続します。

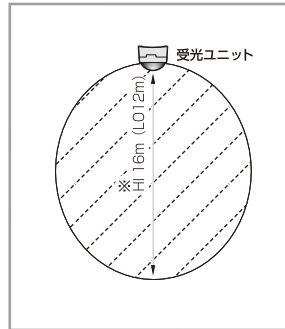
セッティング例

天面から見たセッティング例

受信範囲がある程度重なるように受光ユニットを取り付けると効果的です。また受光ユニットは正面に最大感度を持っているため、天井取り付けよりも壁面取り付けのほうがより効果的です。

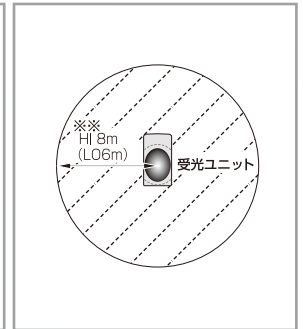
受光ユニット 1 個 使用時

●壁面に取り付けた場合



※ミュート入の場合は
HI 9m / LO 7m

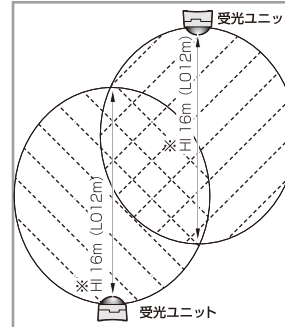
●天井に取り付けた場合



※ミュート入の場合は
HI 4.5m / LO 3.5m

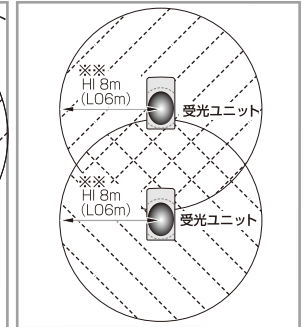
受光ユニット 2 個 使用時

●壁面に取り付けた場合



※ミュート入の場合は
HI 9m / LO 7m

●天井に取り付けた場合



※ミュート入の場合は
HI 4.5m / LO 3.5m

*斜線の範囲内でご使用ください。室内の状況により到達距離は変化します。特に直射日光、スポットライト、白熱電灯などの光が受光ユニットに入ると、大幅に到達距離が短くなりますのでご注意ください。

*プラスマディスプレイに受光ユニットを向けたり、近づけるとノイズが極端に増える場合があります。

⚠️ 取り付け上の注意

- 受光ユニットのケーブルを壁などに固定する場合、強い力で固定すると断線することがあるのでご注意ください。
- 取り付け場所の強度を確認してください。強度不足、取り付けの不備による落下などの事故に対する責任は、当社は一切負いません。
- 受光ユニットを取り付けずに、レシーバーだけのセッティングにすると赤外光が届かない場合があります。狭い部屋でも取り付けてください。
- 貼り付け板をご使用の場合、天井や壁の材質により、また気温、湿度などの環境によりはがれやすい場合があります。落下して人に当たる可能性のある場所への設置は絶対に行わないでください。

受光ユニットのケーブル長を短くすることも可能です。

*φ5mm以下のプラスドライバーを用意します。

①受光ユニットのRCAピンプラグをレシーバーから抜きます。

②カバーを開けます。

③ケーブルを固定しているネジを2本外します。

④ケーブルの導体を外します。

⑤適当な長さにケーブルを切ります。

(複数個使用する際は、ケーブル長をそろえたほうが、受光感度が良くなります。)

⑥ケーブルの被覆を最初に付いていたケーブルと同じ長さにはがします。

⑦各々の導体を丸めてネジと端子との間に差し込んでから、ネジを元通りに締めて完了です。このときショートしていないことを確認してください。ショートすると本体が故障する恐れがあります。

*極性をよく確認して取り付けてください。シールド(太い導体)が「GND」側、芯線(導体が細く黄色い被覆)が「SIGNAL」側です。

マイクユニット ASSY 交換のしかた

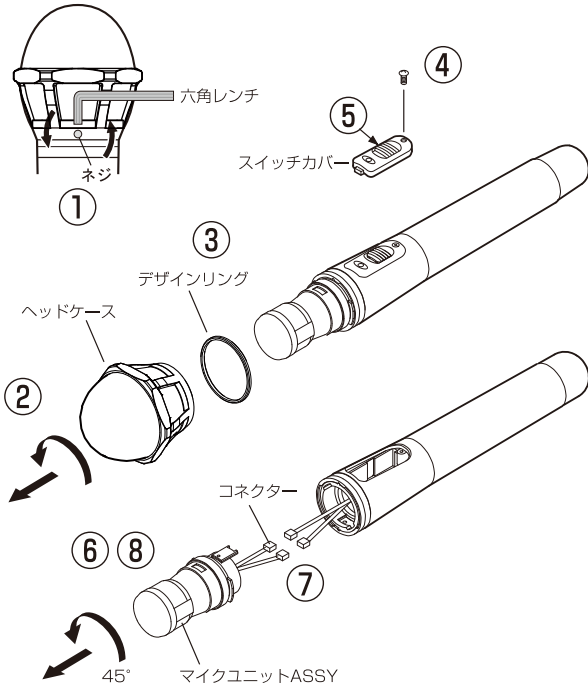
マイクユニット ASSY(別売)とΦ2mmのプラスドライバーおよび1.5mmの六角レンチをご用意ください。

- ①ヘッドケース下部に付いているネジを六角レンチで外します。
- ②ヘッドケースを反時計方向に回し、外します。
- ③デザインリングを外します。
- ④スイッチカバーのネジを外します。
- ⑤スイッチカバーを外します。
- ⑥マイクユニット ASSY を反時計方向に45°回転させ本体から引き抜きます。
- ⑦コネクターを外します。
- ⑧新しいマイクユニット ASSY をコネクターに接続して本体に差し込み、今までと逆の手順で元通りに組み立てます。

※コネクターはユニット側、本体側とも2本使いになっています。どちらにコネクターを差し込んでも構いませんが、2本とも差し込んでください。

メモ：

組み込むときにリード線を中心に押し込みながら、挟まないように、ユニットを挿入してください。



グリップ LOW-ASSY 交換のしかた

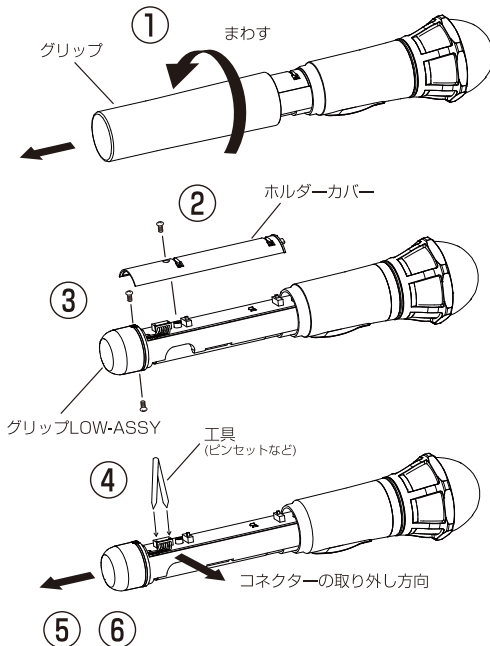
専用のグリップ LOW-ASSY(別売)とΦ2mmのプラスドライバーおよび先の尖った工具(例：ピンセット)をご用意ください。

- ①グリップを反時計方向に回し、外します。
- ②ホルダーカバーのネジ1本を外し、ホルダーカバーを外します。
- ③グリップ LOW-ASSY のネジ2本を外します。
- ④コネクターのロック穴2つに、先の尖った工具を入れながらコネクターを外します。
- ⑤グリップ LOW-ASSY を外します。
- ⑥新しいグリップ LOW-ASSY をコネクターに接続して、今までと逆の手順で元通りに組み立てます。

注意：

コネクターを外す際は、ロック穴を押しながら、少しずつずらすようにしてください。

組み込むときに、コネクターのリード線がホルダーカバーに挟まらないよう、リード線を中央に寄せてください。



故障かな?と思ったら

マイクロホンの電源が入らない

- ・充電されていますか?
→出荷時は充電されていません。
充電してからご使用ください。

レーザーの電源が入らない

- ・ACアダプターが外れていませんか?
→ACアダプターを接続してください。

音が出ない

- ・レーザーの出力の切り換えは確かですか?
→接続した機器によってマイク/ラインを切り換えます。
- ・接続した機器のボリュームを絞っていませんか?
→ボリュームを上げてください。
- ・受光器入力とマイクロホン出力との配線を間違っていないですか?
→配線を確認してください。

音声が調節できない

- ・レーザーのフロントボリューム可変/固定切換スイッチが、固定の状態になっていませんか?

レーザーが受信しない(マイクインジケータが点灯しない)

- ・マイクロホンとレーザーが受光ユニットとの間に障害物がありますか?
→直視可能な場所に設置してください。
- ・マイクロホンと受光ユニットとの距離が離れていませんか?
→8ページのセッティング例を参考に到達範囲内でご使用ください。
- ・受光器入力とマイクロホン出力との配線を間違っていないですか?
→配線を確認してください。

満充電してもすぐに電池がなくなってしまう

- 電池がメモリー効果を起こしている可能性があります。
→マイクロホンの電源スイッチをON側にして5時間以上放置した後、電源スイッチをOFF側にしてまた充電してください。
- ※上記の操作をしても改善されない場合は、充電式電池の寿命(約750回の充電が目安です)と思われます。新しい充電式電池と交換してください。

※修理品の送付について

- 修理・検査の場合、お買い上げの販売店または当社窓口へお送りください。
なお、送料はお客様ご負担とさせていただきます。
製品は輸送中の事故がないように、元通りに梱包してお送りください。

※システムを運用するには下記製品の組み合わせが必要です。

(当社のホームページを参照してください。)

- ・コードレスマイクロホン : **AT-CLM900T, AT-CLM990T**
- ・レーザー(10mケーブル受光ユニット付き) : **AT-CR999**
- ・受光ユニット(20mケーブル付き) : **AT999RX**
- ・充電器 : **BC701**

●別売

- ・12連装充電器 : **BC120**
- ・ニッケル水素充電電池 : **RB3UTG(1900mAh)**

(改良などのため予告なく変更することがあります。)

テクニカルデータ

コードレスマイクロホン : AT-CLM900T/A, B AT-CLM990T/A, B

- 型式 : ダイナミック型
指向特性 : 単一指向性
変調方式 : FM周波数変調
搬送波周波数 (AT-CLM900T)
: Aチャンネル・2.06MHz、Bチャンネル・2.56MHz
搬送波周波数 (AT-CLM990T)
: Aチャンネル・3.2MHz、Bチャンネル・3.7MHz
トーン信号 : 35.7KHz
赤外線波長 : 870±30nm
到達距離 ※室内の状況により変化します。

出力切換	ミュート標準	ミュート入
HI	約16m	約9m
LO	約12m	約7m

- バッテリー : ニッケル水素充電電池 **RB3UTG(1900mAh)**(本体に実装済み)、
または単3形アルカリ乾電池×2(緊急時)

ニッケル水素充電電池使用時		単3形アルカリ乾電池使用時	
出力切換	連続使用時間	出力切換	連続使用時間
HI	約4.5時間	HI	約3時間
LO	約8時間	LO	約6時間

- 外形寸法 : Φ55×253mm(ヘッド径×全長)
質量 : 約324g(専用ニッケル水素充電電池実装時)
●付属品 : 専用ニッケル水素充電電池 **RB3UTG(1900mAh)**
(マイクロホン組み込み)

レーザー : AT-CR999

- チャンネル数 : 4チャンネル
出力レベル : マイク -45dBV(VOL MAX時)
: ライン -30dBV(VOL MAX時)
電源 : DC12V、1000mA
ACアダプター
(**AD-LL1210AR**・JEITA規格RC5320A極性統一形プラグ
◇G◇)

- 外形寸法 : H48×W420×D161mm(ジャック類含まず)
質量 : 約1785g
●付属品 : 受光ユニット (**AT999RX**)
※付属の受光ユニットには10mのケーブルが接続されています。
: ACアダプター (**AD-LL1210AR**)、木ネジ×4
: 2.0m接続ケーブル×2
: RCAピンプラグ ⇔ Φ6.3モノラルL型標準プラグ
: RCAピンプラグ ⇔ RCAピンプラグ
: 簡易説明シール
: 保証書

受光ユニット : AT999RX

- 外形寸法 : H34×W45×D80mm
ケーブル長 : 20m
質量 : 約53g(ケーブル除く)
●付属品 : 木ネジ×4
: 保証書

充電器 : BC701

- 方式 : 急速充電
電源 : DC12V、500mA
ACアダプター (**AD-SL1205AO**・JEITA規格
RC5320A極性統一形プラグ ◇G◇)
充電出力 : DC3.5V、400mA×2
消費電力 : 6.5W(充電中)
充電式電池標準充電時間 : 約5.5時間(当社ニッケル水素充電電池(1900mAh)の場合)
※充電式電池の充電残量によって異なります。
外形寸法 : H80×W151×D70mm
質量 : 約370g
充電式電池使用温度範囲 : 放電(機器使用時) : -10~+40℃
: 保存 : -20~+40℃
: 充電 : +5~+40℃
●付属品 : ACアダプター (**AD-SL1205AO**)
: 保証書

12連装充電器 : BC120

※詳細仕様に関しては、BC120 付属の取扱説明書を参照してください。

MEMO



audio-technica®
always listening

製品保証および修理などにつきましては、お買い上げのお店あるいは下記窓口までお問い合わせください。

株式会社 **オーディオテクニカ**

[東京] 東京都文京区湯島 1-8-3 テクニカハウス
〒113-8525 ☎ 03(6801)2030

[名古屋] 愛知県名古屋市東区葵 3-22-8 ニューザックビル 7F
〒461-0004 ☎ 052(979)4706

[大阪] 大阪市淀川区西宮原 2-1-3 SORA 新大阪 21 13F
〒532-0004 ☎ 06(6395)5464

[福岡] 福岡市博多区博多駅東 3-12-1 アバンダント 95 ビル 3F
〒812-0013 ☎ 092(412)7261

<http://www.audio-technica.co.jp/amz>